

受験番号		名前	
------	--	----	--

令和5年度 大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テスト
幼稚園・小学校共通 教科専門 問題集 (択一式)

受験中の心得

- 1 試験時間中は、すべて係員の指示に従ってください。お互いに話をしたり、席を立ったり、そのほか、人の迷惑になるようなことをしてはいけません。
- 2 試験開始後、まず名前を記入し、受験番号を次の〔記入例〕に従って黒くぬりつぶしてください。

〔記入例〕

解答用紙

名前 ■

受験番号

A	9	B	8	C	7	D	6	E	5	F	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

A	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	●	
B	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	●	⑨	⑩
C	①	②	③	④	⑤	⑥	●	⑧	⑨	⑩
D	①	②	③	④	⑤	●	⑦	⑧	⑨	⑩
E	①	②	③	④	●	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
F	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	●

- 3 答えは解答用紙に記入してください。
- 4 問題はいずれも五つの答えがでていますが、そのうち最も適切と思われる答えを一つ選んで、解答用紙の問題番号の右にある五つの数字のうち一つを次の〔解答例〕のように黒くぬりつぶしてください。

〔解答例〕

1 日本の首都はどこか。1～5から一つ選べ。

1 京都 2 奈良 3 東京 4 名古屋 5 大阪

この場合、正答は「3 東京」なので、解答用紙の問題番号 1 の 1 ① ② ● ④ ⑤

右横に並んでいる③を黒くぬりつぶしてください。

- 5 間違ってぬりつぶしたときは、消しゴムでよく消してください。
- 6 問題は24問となっています。
- 7 時間は90分です。
- 8 途中退室はできません。
- 9 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 10 計算を必要とする場合は問題集の余白を利用してください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

□ 次のア～エの各文は、学校教育法施行規則（昭和22年 文部省令第11号）から抜粋したものである。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

第三章 幼稚園

第三十九条 第四十八条、第四十九条、第五十四条、第五十九条から第六十八条までの規定は、幼稚園に準用する。

ア 第四十八条 小学校には、設置者の定めるところにより、校長の職務の円滑な執行に資するため、職員会議を置くことができる。

2 職員会議は、校長が主宰する。

イ 第五十九条 小学校の学年は、四月八日に始まり、翌年三月二十四日に終わる。

ウ 第六十条 授業終始の時刻は、教育委員会が定める。

エ 第六十三条 非常変災その他急迫の事情があるときは、校長は、臨時に授業を行わないことができる。この場合において、公立小学校についてはこの旨を当該学校を設置する地方公共団体の教育委員会（公立大学法人の設置する小学校にあつては、当該公立大学法人の理事長）に報告しなければならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	×
2	○	×	×	○
3	×	×	○	○
4	○	×	○	×
5	×	○	×	×

- 2 次のア～オの各文は、[] 内に示される幼稚園について定めた関係法規等を抜粋したものである。正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

[教育基本法]

ア 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない。

[幼稚園設置基準]

イ 学級は、学年の初めの日において同じ年齢にある幼児で編成することを原則とする。

[幼稚園設置基準]

ウ 幼稚園には、学級数及び幼児数に応じ、教育上、保健衛生上及び安全上必要な種類及び数の園具及び教具を備えなければならない。

[学校保健安全法]

エ 学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、児童生徒等の保護者との連携を図るとともに、当該学校が所在する地域の実情に応じて、当該地域を管轄する警察署その他の関係機関、地域の安全を確保するための活動を行う団体その他の関係団体、当該地域の住民その他の関係者との連携を図るよう努めるものとする。

[学校教育法]

オ 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を指導し、幼児の健やかな成長のために適当な援助を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | エ | |
| 2 | イ | ウ | |
| 3 | ウ | エ | オ |
| 4 | ア | ウ | エ |
| 5 | イ | エ | オ |

③ 次の(1)～(3)の各文は、幼稚園教育要領(平成29年3月告示)「第2章 ねらい及び内容 健康 1 ねらい」に関する記述である。空欄(A)～(C)にあてはまる語句を〔 〕内に示されるア～ケの語群から選ぶとき、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

(1) 明るく伸び伸びと行動し、(A)を味わう。

(2) 自分の体を十分に動かし、(B)運動しようとする。

(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、(C)をもって行動する。

〔語群〕

ア 意欲	イ 開放感	ウ 興味や関心
エ 工夫して	オ 充実感	カ 進んで
キ 楽しさ	ク 友達と関わりながら	ケ 見通し

	A	B	C
1	イ	エ	ア
2	イ	カ	ウ
3	オ	カ	ケ
4	オ	ク	ウ
5	キ	エ	ケ

- 4 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）「第2章 ねらい及び内容 人間関係 3 内容の取扱い」に関する記述として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。
1～5から一つ選べ。

ア 集団の生活を通して、幼児が人との関わりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

イ 身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分から関わろうとする意欲を育てるとともに、様々な関わり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にす気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。

ウ 幼児が互いに関わりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

エ 一人一人を生かした集団を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにすること。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | |
| 2 | ア | ウ | |
| 3 | イ | エ | |
| 4 | ア | ウ | エ |
| 5 | イ | ウ | エ |

5 次のア～オの各文のうち、幼稚園教育要領（平成29年3月告示）「第2章 ねらい及び内容 環境 2 内容」に関する記述として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。

イ 日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。

ウ 共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。

エ いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

オ 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | |
| 2 | イ | ウ | |
| 3 | ウ | エ | |
| 4 | ア | イ | エ |
| 5 | イ | エ | オ |

6 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第1章第1節 幼稚園教育の基本」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 環境を通して行う教育において、幼児が自ら心身を用いて対象に関わっていくことで、対象、対象との関わり方、さらに、対象と関わる自分自身について学んでいく。幼児の関わりたいという意欲から発してこそ、環境との深い関わりが成り立つ。この意味では、幼児の主体性が何よりも大切にされなければならない。

イ 幼児が自分から興味をもって、遊具や用具、素材についてふさわしい関わりができるように、遊具や用具、素材の種類、数量及び配置を考えることが必要である。このような環境の構成への取組により、幼児は積極性をもつようになり、活動の充実感や満足感が得られるようになる。遊具や用具、素材だけを配置して、後は幼児の動くままに任せることにより、その対象の潜在的な学びの価値を引き出すことができる。その意味においては、テーブルや整理棚など生活に必要なものや遊具、自然環境、教師間の協力体制など幼稚園全体の教育環境が、幼児にふさわしいものとなっているかどうかとも検討されなければならない。

ウ 環境との関わりを深め、幼児の学びを可能にするものが、教師の幼児との関わりである。教師の関わりは、基本的には間接的なものとしつつ、環境に含まれている教育的価値を教師が取り出して直接幼児に教え込んでいくことが重要である。また、幼児の意欲を大事にするには、幼児の遊びを大切に、やってみたいと思えるようにするとともに、試行錯誤を認め、時間を掛けて取り組めるようにすることも大切である。

エ 教師自身も環境の一部である。教師の動きや態度は幼児の安心感の源であり、幼児の視線は、教師の意図する、しないに関わらず、教師の姿に注がれていることが少なくない。物的環境の構成に取り組んでいる教師の姿や同じ仲間の姿があつてこそ、その物的環境への幼児の興味や関心が生み出される。教師がモデルとして物的環境への関わりを示すことで、充実した環境との関わりが生まれてくる。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	×
2	×	○	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	○	×	×	×

7 次のア～オの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第1章第3節 教育課程の役割と編成等」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼稚園においては、幼児はそれぞれの興味や関心に応じ、直接的・具体的な体験などを通じて幼児なりのやり方で学んでいくものであるが、小学校以降の学習のように教師があらかじめ立てた目的に沿って、順序立てて言葉で教えられ学習することも必要である。

イ 幼稚園規模、教職員の状況、施設設備の状況などの人的・物的条件の実態は幼稚園によって異なっているが、教育課程の編成に当たっては、このような幼稚園の条件を考慮せず、編成しなければならない。

ウ 幼稚園においては、編成、実施した教育課程が教育目標を効果的に実現する働きをするよう、教育課程の実施状況を評価し、改善を図ることが求められている。

エ 具体的なねらいと内容を組織するに当たっては、まず、それぞれの幼稚園で入園から修了までの教育期間において、幼児がどのような発達をしていくかという発達の過程を捉える必要がある。それぞれの発達の時期において幼児は主にどのような経験をしていくのか、また、教育目標の達成を図るには、入園から修了までを通してどのような指導をしなければならないかを、各領域に示す事項に基づいて明らかにしていく必要がある。

オ 幼稚園教育は法令や幼稚園教育要領に基づいて行われるものであるので、全教職員がそれぞれに示されていることについての理解を十分にもつと同時に、実践を通してそれぞれの幼稚園の実態に即した教育課程となるようにすることが大切である。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	○	○	×	×
2	○	○	×	×	○
3	×	×	○	○	○
4	×	○	×	○	×
5	×	×	○	×	○

8 次のア～オの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第1章第4節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価」に関する記述の一部として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 指導計画は、教育課程を具体化したものであり、具体化する際には、一般に長期的な見直しをもった年、学期、月あるいは発達の時期などの長期の指導計画（年間指導計画等）とそれと関連してより具体的な幼児の生活に即して作成する週の指導計画（週案）や日の指導計画（日案）等の短期の指導計画の両方を考えることになる。

イ 具体的な指導は指導計画によって方向性を明確にもち、その確実な実現のために行うものであり、指導計画は幼児の生活に応じて変えていくものでないことに留意する必要がある。

ウ 具体的なねらいや内容を設定する際には、その幼稚園の幼児たちの発達の過程を参考にして、その時期の幼児の発達する姿に見直しをもつことやその前の時期の指導計画のねらいや内容がどのように達成されつつあるかその実態を捉えること、さらに、その次の時期の幼稚園生活の流れや遊びの展開を見通すことなどが大切である。

エ 指導計画においては、幼児が主体的に活動できる場や空間、適切な物や友達との出会い、さらに、幼児が十分に活動できる時間やその流れなどを考えることが必要となるが、その際、常に教師が主導して環境をつくり出し、幼児がその中で活動することを踏まえることが大切である。

オ 幼児理解に基づいた評価を行う際には、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意する必要がある。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	○	×	×	○
2	○	×	○	×	○
3	×	×	○	×	○
4	×	○	×	○	×
5	○	×	×	○	×

- 9 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第1章第6節 幼稚園運営上の留意事項」に関する記述の一部である。正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 保育参加などを通じて、保護者が幼稚園生活そのものを体験することは、幼稚園教育を具体的に理解することができるとともに、保護者が幼児と体験や感動を共有することで、幼児の気持ちや言動の意味に気付いたり、幼児の発達の姿を見通したりすることにつながる。

イ 幼稚園の教育課程は、教育委員会の責任において編成するものである。その際、幼稚園や地域の実態を把握して、特色を生かし、創意のある教育課程を編成しなければならない。

ウ 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のためには、保育参観や授業参観を通じて、教師同士がお互いの教育内容等について相互に理解できるよう、幼稚園と小学校が組織的に連携することが大切である。

エ 指導計画を作成し、指導を行う際には、家庭や地域社会を含め、幼児の生活全体を視野に入れ、幼児の興味や関心の方向や必要な経験などを捉え、適切な環境を構成して、その生活が充実したものとなるようにすることが重要である。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | エ | |
| 2 | イ | ウ | |
| 3 | イ | エ | |
| 4 | ア | イ | ウ |
| 5 | ア | ウ | エ |

- 10 次の文章は、学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂 日本学校保健会）に示されているアナフィラキシーに関する記述の一部である。下線部（ア）～（エ）の記述について、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

[定義]

アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼー、呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態をアナフィラキシーと言います。その中でも、(ア) 血圧が上昇し、意識の低下や脱力を来すような場合を、特にアナフィラキシーショックと呼び、直ちに対応しないと生命にかかわる重篤な状態であることを意味します。

また、アナフィラキシーには、アレルギー反応によらず、(イ) 運動や身体的な要因（低温/高温など）によって起こる場合があることも知られています。

[治療]

具体的な治療は重症度によって異なりますが、意識の障害などが見られる重症の場合には、(ウ) まず適切な場所に頭を足より高く上げた体位で寝かせ、仰向けにします。そして、意識状態や呼吸、心拍の状態、皮膚色の状態を確認しながら必要に応じ一次救命措置を行い、救急車で医療機関への搬送を急ぎます。

アドレナリン自己注射薬である「エピペン®」を携行している場合には、(エ) 緊急性が高いアレルギー症状があると判断したタイミングでショックに陥る前に注射することが効果的です。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | |
| 2 | イ | エ | |
| 3 | ウ | エ | |
| 4 | ア | イ | ウ |
| 5 | イ | ウ | エ |

- Ⅱ 次のア～オの各文は、学校の危機管理マニュアル作成の手引（平成30年2月 文部科学省）「幼稚園等における留意点」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア [引渡し等の理解と協力]

事故等が発生した場合の連絡の仕方・幼児の引渡しの方法については、1学期の終わりまでに保護者と確認しておく。

保護者の勤務場所やきょうだいの有無及び在籍校、緊急時の連絡先を事前に確認し、迎えが遅くなる幼児を把握しておく。

イ [登降園時の約束の理解]

日々の登降園や家庭生活の中で、保護者が歩行・横断・自転車のルールやマナーのモデルであることを繰り返し伝える。

ウ [特別な配慮の必要な幼児への対応]

幼児の特徴や、いつもと違う状況での配慮点、介助者等がない場合に誰がどのように避難に付き添うか等について、園内で共通理解を図る。

エ [避難誘導]

不審者侵入時は、幼児誘導の時間を稼ぐため、複数の教職員で不審者を捕えることを最優先にする。

オ [人員の確認・報告]

保育中は園内の様々な場所に年齢の異なる幼児がいるため、どの部屋にどの組が何人避難しているか、教職員はどの幼児がいるかを確認して内線などで対策本部に報告し、園の全人員の安否を確認する。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	×	○	×	×	○
2	○	○	×	○	×
3	×	×	×	○	○
4	×	○	○	×	○
5	○	×	○	○	×

12 次のア～エの各文は、学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（平成31年3月文部科学省）に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 学校安全の領域は、「生活安全」「交通安全」「災害安全」などがあるが、従来想定されなかった新たな危機事象の出現などにも柔軟に対応し、学校保健や生徒指導など様々な関連領域と連携して取り組むことが重要である。

イ 学校安全計画は、学校保健安全法第27条により、その学校の実情により策定・実施に努めなければならないものであり、安全教育の各種計画に盛り込まれる内容と安全管理の内容とを関連させ、統合し、全体的な立場から、年間を見通した安全に関する諸活動の総合的な基本計画である。

ウ 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての安全指導を中心とし、幼稚園教育のねらいが総合的に達成されるようにすることが大切である。したがって、幼稚園における安全に関する指導は、遊びや園生活を通して、幼児一人一人の実態に即して日常的、重点的に行われるものである。

エ 園外で活動する場合、活動場所、活動状況等が極めて多岐にわたるため、幼児の発達や活動場所などの特性に応じた安全管理が必要となる。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	○
2	○	○	×	×
3	○	×	○	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

13 次のア～エの各文は、農林水産省公表資料「子どものための農業教室」の一部である。野菜の栽培や収穫等の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア ジャガイモは、植えてから60日くらいたって、花がさくころに収穫です。土をほりおこして、ジャガイモをほりあげます。日かげの風通しのよい場所に広げて十分に表面をかわかしてから貯蔵します。

イ ジャガイモの種いもは、桜がさくころに芽が出るように植えます。本州中部では、3月始めから中ごろ。

ウ サツマイモは、苗と苗の間が10cmくらいになるように、浅く植えます。鉢やプランターに植える場合は、1～2本をななめや、まっすぐに植えます。

エ サツマイモは、植えてから120日くらいで収穫できます。一度試しにほってみて、大きさを確かめておくのもよいでしょう。皮はやわらかくて傷つきやすいのでていねいにほり上げます。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	○	○
2	○	×	×	○
3	○	×	○	×
4	×	○	×	○
5	×	○	○	×

- 14 次の文章は、幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開（令和3年2月 文部科学省）の幼稚園と小学校の交流活動の事例の一部である。この活動を、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第1章第2節 幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」の〔幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〕から子供たちの学びを捉えて振り返ったときに空欄（ A ）～（ C ）にふさわしいものをア～エから選んだ場合、最も適するものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

2学級ずつある幼稚園の5歳児と小学校の1年生の交流なので、活動日を変えて2回交流を行いました。1回目の活動の振り返りを踏まえて2回目の活動を行いました。

2学級目の空組の幼児と1年2組の交流活動を行った。幼児たちは、月組のときと同様、期待と緊張から、何となく落ち着かない。交流活動の流れは1回目と同じだが、幼稚園と小学校の教師は、1回目の振り返りを踏まえて、子供同士が自ら関わり、活動を考えて行動できるようにという意識をもって臨んだ。

自己紹介は各グループの声が重ならないように多目的室も使い、聞き取りやすいようにした。教師もなるべく散って、それぞれの自己紹介が行われているか、見守るようにした。

その後、小学校の教師から活動について簡潔に「1年生と幼稚園生で、一緒に七夕飾りを作りましょう」、「幼稚園のお友達は、トイレに行きたいときは小学生に場所を教えてもらってください」という話があった。

活動の始まりでは、1学級目の交流会と同じように、児童が丁寧に教えてくれる姿が多く見られた。自己紹介を丁寧にしたとしても、初めて会った子供たちも多く、「1年生」「幼稚園の幼児」という社会的な立場を優先して接することは当たり前かもしれないと思った。

しかし、しばらくすると児童から「ね、ね、輪飾りをたくさんつなげよう！」という提案があるグループから聞こえてきた。幼児も「いいね」と応じ、グループのメンバー全員で輪飾りを作り、長くつなげ始めた。長くなってくると「見て！見て！皆でつなげたらこんなに長くなったよ！」という声が聞こえてきた。それに触発されたのか、他のグループからも「ぼくたちもつなげようよ」という声があがり、いくつかのグループが輪飾りをつなげ長くし始めた。グループ同士で競い合う気持ちが出てきて「ぼくたち、いくつあるか数えてみたら110個もあったよ！」「私たちはもっとあるよ。あのね、歩幅で数えるといいよ。1歩が20個ぐらいだよ」「手を広げてみるとどのくらい分かるよ」などと長さに関心をもち始め、どのくらいの長さになったか測る活動も見られ始めた。

願い事は、児童が書いてあげるのではなく、幼児が自分で書くができないところは児童が手伝っていた。

幼稚園の教師は、必要なときには援助しつつも、あまり活動に入り込んだり、児童を認めたりする言葉は控え、子供たちがその活動から自分たち自身で振り返る余地を残すように心掛けた。

後日、小学校の教師から、この活動を振り返った児童の絵日記に「最初は幼稚園生と遊んであげようと思っていましたが、今度は一緒に遊びたいと思いました」と書いてあったとの報告をもらった。

交流活動終了後に、幼稚園の教師と小学校の教師と一緒に振り返りを行いました。

1回目と同様、児童や幼児が、交流活動を通していろいろな人と親しみをもって関わる姿やどのように関わったらよいかということを考える姿（社会生活との関わり）、相手に作り方を教える、話をしっかり聞くなどの姿（言葉による伝え合い）、見通しをもって活動する姿（ A ）などが見られたことを確認しました。

さらに、今回、「1年生は教えてあげる側、幼児は教えてもらう側」ではなく、子供たち自身でグループ内の関係づくりができるようにし、活動も各グループに任せた結果、「『皆で』とか『私たち』という言葉が多く聞かれ、教える、教えてもらうという関係から、一つのめあてに向かって、児童も幼児も一緒になって取り組む姿が見られた（ B ）」、「そのことによって、達成感も見られた（ C ）」、「輪飾りの数を数えたり、長さを測ったりする活動にも広がったり、幼児にとっては文字を書く機会もできた（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）」など、1回目の交流会では見られなかった姿が見られたことを確認しました。

[幼児期の終わりまでに育ってほしい姿]

- ア 協同性
- イ 自立心
- ウ 道徳心・規範意識の芽生え
- エ 健康な心と体

	A	B	C
1	ア	ウ	エ
2	イ	エ	ア
3	イ	ア	ウ
4	ウ	エ	イ
5	エ	ア	イ

15 次のア～オの各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第2章第1節 ねらい及び内容の考え方と領域の編成」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼稚園教育要領の第2章「ねらい及び内容」において、各領域に示されている事項は、幼稚園教育が何を意図して行われるかを明確にしたものである。

イ 「ねらい」と「内容」を幼児の発達の側面からまとめて以下の五つの領域を編成している。

- ・心身の健康に関する領域「健康」
- ・人との関わりに関する領域「人間関係」
- ・身近な環境との関わりに関する領域「環境」
- ・言葉の獲得に関する領域「言葉」
- ・感性と表現に関する領域「表現」

ウ 「特に必要な場合には、各領域に示す「ねらい」の趣旨に基づいて適切な、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えない」としつつも、「その場合には、それが第1章の第1に示す幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。」としている。

エ 教師が幼児の発達の実情を踏まえながら指導し、幼児が身に付けていくことが望まれるものを「ねらい」とし、幼稚園教育において育みたい資質・能力を達成するために幼児の生活する姿から捉えたものを「内容」としたものである。

オ 幼稚園教育における領域は、それぞれが独立した授業として展開される小学校の教科と同じであるため、領域別に教育課程を編成したり、特定の活動と結び付けて指導したりするなどの取扱いをしなければならない。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1	○	○	○	×	×
2	×	×	×	○	○
3	○	×	○	○	○
4	×	○	×	×	×
5	○	×	○	○	×

16 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第2章第2節 各領域に示す事項『言葉』」に関する内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 教師は、幼児の、話したい、表現したい、伝えたいという気持ちを受け止めながらも生活と切り離れた形で文字のもつ意味や正しい文字の書き方などについて覚え込ませ、幼児が文字を用いて伝えようとする場面を積極的に設けることが大切である。

イ 教師が心を傾けて幼児の話やその背後にある思いを聞きとり、友達同士で自由に話せる環境を構成したり、幼児同士の心の交流が図られるように工夫したりすることで、幼児の伝えたいという思いや相手の話を理解したいという気持ちを育てることが大切である。

ウ 絵本が幼児の目に触れやすい場に置かれ、落ち着いてじっくり見ることができる環境があることで、一人一人の幼児と絵本との出会いは一層充実したものとなっていく。そのために、保育室における幼児の動線などを考えて絵本のコーナーを作っていくようにすることが求められる。

エ 教師は、幼児の言葉の発達や人との関わりを捉えそれに応じながら、正しく分かりやすく、美しい言葉を使って幼児に語り掛け、言葉を交わす喜びや豊かな表現などを伝えるモデルとしての役割を果たしていくことが大切である。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	○	○
2	○	○	○	×
3	×	○	×	○
4	×	×	○	×
5	×	○	○	○

17 次の各文は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第2章第2節 各領域に示す事項『表現』」に関する記述の一部である。A～Dの各文の内容とア～エの3歳児に関する記述の組合せとして最も適するものはどれか。1～5から一つ選べ。

A 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

B 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

C かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

D 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

ア 特に、3歳児は一人一人の世界を楽しんでいることが多く、何かのつもりになってごっこ遊びをするというよりは、1本の棒を持っただけで何かになりきることさえできる。

イ 特に3歳児では、例えば、単に広告紙を巻いて棒をつくり、それを手に持って遊んでいるという姿は、その幼児なりの見立てやイメージの世界を楽しんでいる姿である。

ウ 特に3歳児は、手近にある物を仲立ちにしたり、声や動作など様々な手段で補ったりしながら自分の気持ちを表したり、伝えたりしようとする。

エ 特に3歳児では、じっと見る、歓声を上げる、身振りで伝えようとするなど言葉以外の様々な方法で感動したことを表現しているので、教師はそれを受容し、共感をもって受け止めることが大切である。

	A	B	C	D
1	ウ	ア	イ	エ
2	ウ	エ	イ	ア
3	エ	ア	ウ	イ
4	エ	ウ	ア	イ
5	エ	ウ	イ	ア

- 18 次の文章は、幼児理解に基づいた評価（平成31年3月 文部科学省）「第2章 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方」の幼稚園幼児指導要録「指導の重点等」の欄に関する記述の一部である。下線部（ア）～（エ）の記述について、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

(ア) 幼稚園における評価とは、よりよい指導を生み出すためのものですから、幼児の発達する姿を捉えると同時に、その姿の背景となっている指導に対して、評価を行うことに重要な意味があります。そのため、(イ)「指導の重点等」の欄には、その年度にどのような方向に向けて指導を行ってきたかを明確にするために、二つの点を記入することとしています。

その一つは、幼稚園教育要領のねらいや内容に沿って、各幼稚園の教育課程や年間の指導計画などの中で、(ウ)学年のどの幼児に対しても指導の重点として目指してきたものです。この重点は、年度の初めに長期の見通しとして設定されたもので、どの幼児にも同じものを記入することになるでしょう。

もう一点は、(エ) 年度の初めに個々の幼児の指導について特に重視したい点を記入するものです。日頃から累積してきた記録などを活用して、その幼児に対しての指導の重点を探ってみることは、その指導が適切であったかどうかを評価することにもなるでしょう。

- 1 イ
- 2 ウ エ
- 3 ア イ ウ
- 4 ア ウ エ
- 5 ア イ ウ エ

19 次の文章は、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第2章第3節 環境の構成と保育の展開」に関する記述の一部である。空欄A～Cにあてはまるものをア～ウから選んだ場合、最も適するものの組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

環境を通して教育を行うためには、幼児が興味や関心をもって関わるができる環境条件を整えることが必要であるが、それだけでは十分ではない。幼児が環境に関わるにより、その発達に必要な経験をし、望ましい発達を実現していくようになることが必要である。ただ単に幼児が好き勝手に遊んでいるだけでは、必ずしも発達にとって重要な価値ある体験をするとは限らない。例えば、幼児が楽しんでいるからといって、いたずらに生き物を痛め付けたり、殺したりすることがよい体験だとはいえない。

A

環境を考えるに当たって、遊具や用具、素材など物的環境をどうするかは大切な問題である。しかし、幼児の活動に影響を与えている環境の要素は物だけではない。その場にいる友達や教師、そのときの自然事象や社会事象、空間的条件や時間的条件、さらには、その場の雰囲気なども幼児の主体的活動や体験の質に影響を与えている。

例えば、幼児数人が園庭で探検ごっこをし、小道具を作って「明日続きをしよう」と約束して今日になったとしよう。今日の保育室での製作は、昨日友達とした約束、この後仲間と探検ごっこをするという期待、天気がよくて早く外に行きたいという気持ちの高まり、先に作った友達が待っている状況などの条件の下で行われることになる。

このような様々な事柄が相互に関連して、幼児にとって意味のある一つの状況を形成しており、その状況の下で、主体的な活動が展開するのである。

B

1日の保育が終わった後、教師は幼児の活動の姿を振り返りながら翌日の環境を考える。

C

ア すなわち、今日から明日への流れを踏まえた上で、幼児の活動が充実し、一人一人が発達に必要な経験を得られるために指導計画を作成し、ものや空間などの環境を構成し、次の日に幼児を迎える。

イ すなわち、幼稚園は幼児が発達に必要な経験をするができるように配慮された環境でなければならないのである。

ウ すなわち、環境を構成するということは、物的、人的、自然的、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、幼児が主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況をつくり出すことなのである。

	A	B	C
1	ア	イ	ウ
2	イ	ア	ウ
3	イ	ウ	ア
4	ウ	ア	イ
5	ウ	イ	ア

20 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）「第3章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」に関する記述の内容として正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 教育課程に係る教育時間の終了後等の教育活動を行うに当たっては、教育課程に係る教育時間中の活動を考慮する必要がある。教育課程に基づく活動を考慮するということは、必ずしも活動を連続させることではない。教育課程に係る教育時間中における幼児の遊びや生活など幼児の過ごし方に配慮して、教育課程に係る教育時間の終了後等の教育活動を考えることを意味するものである。

イ 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、幼稚園の行う教育活動であり、その計画を作成する必要がある。その際、幼稚園の教育目標や教育課程との関連を考慮して作成する必要はない。

ウ 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は幼稚園が行うものであることを踏まえ、教育活動として安全で適切な活動となるよう教育活動の内容を確認したり、緊急時の連絡体制を整える等、責任体制を整えておくことも大切である。

エ 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の対象となる幼児については、幼稚園で過ごす時間が比較的長時間となるので、家庭における教育が充実するよう家庭への働き掛けを十分に行うことも大切である。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | ウ | |
| 2 | イ | ウ | |
| 3 | イ | エ | |
| 4 | ア | イ | ウ |
| 5 | ア | ウ | エ |

- 21 次の文章は、小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月 文部科学省）の食べ物の旬に関する記述の一部である。ア～エの [] 内に示される季節とそれに関する食べ物について、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

今は一年中、食べたいものを手に入れることができるようになりました。しかし、食べ物には、それぞれの地域でよくそだち、たくさんとれるきせつがあります。それぞれの食べ物が一番よくとれて、おいしくなった時期を食べ物の「旬」といいます。

- | | | | |
|---|-----|-------|--------|
| ア | [春] | キャベツ | たまねぎ |
| イ | [夏] | きゅうり | ブロッコリー |
| ウ | [秋] | さつまいも | そらまめ |
| エ | [冬] | だいこん | みかん |


- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | |
| 2 | イ | ウ | |
| 3 | ア | エ | |
| 4 | イ | ウ | エ |
| 5 | ア | イ | ウ |

22 次の [A群] に示す音楽用語・記号と [B群] に示す意味の組合せとして、最も適切なものを、
1～5から一つ選べ。

[A群]

A dim.

B *pp*

C 

D *mf*

[B群]

ア 少し強く

イ だんだん強く

ウ 少し弱く

エ だんだん弱く

オ とても弱く

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | エ | イ | ウ |
| 2 | イ | ウ | エ | ア |
| 3 | ウ | エ | ア | イ |
| 4 | エ | オ | イ | ア |
| 5 | オ | ウ | ア | イ |

23 次のア～オの各文は、幼児期運動指針(平成24年3月 文部科学省 幼児期運動指針策定委員会)「4 幼児期の運動の在り方」に関する記述の一部である。正しいもののみをすべてあげているのはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 発達の特性に応じた遊びを提供することは、自発的に体を動かして遊ぶ幼児を育成することになり、結果として無理なく基本的な動きを身に付けることになる。

イ 発達の特性に応じた遊びをすることは、その機能を無理なく十分に使うことによってさらに発達が促進され、自然に動きを獲得することができ、けがの予防にもつながるものである。

ウ 同じ年齢であってもその成長の個人差は大きい、幼児期は発達が著しいので、幼児の年齢における一般的な発達の特性に見合った援助のみをすればよい。

エ 幼児にとって体を動かすことは遊びが中心であるので、散歩や手伝いなどの生活の中での様々な動きを除いてとらえておくことが大切である。

オ 幼児の身体諸機能を十分に動かし活動意欲を満足させることは、幼児の有能感を育むことにもなり、体を使った遊びに意欲的に取り組むことにも結び付く。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | ア | イ | エ |
| 2 | ア | イ | オ |
| 3 | ア | ウ | |
| 4 | イ | エ | |
| 5 | ウ | オ | |

24 次のア～ウの各文は、環境教育指導資料〔幼稚園・小学校編〕（平成26年10月 国立教育政策研究所教育課程研究センター）「第1章 今求められる環境教育」及び「第2章 幼稚園における環境教育」に関する記述の一部である。正しいもののみをすべてあげているのはどれか。1～5から一つ選べ。

ア 幼稚園は、生活や遊びの中で、子供の興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、自らを取り巻く環境と関わり、人やものとの関わりを深めつつ、豊かな心情、物事に自分から関わろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度等を養うことを目指している。このような具体的な体験を通して学習を進めることは、幼児教育特有のものであり、小学校教育と異なる。

イ 幼児期の子供の生活のほとんどは興味や関心に基づいた自発的な活動としての遊びから成り立っている。子供は、興味や関心に沿って遊ぶ中で、自らを取り巻く環境に様々に働き掛ける体験を重ねながら、自分が生きている世界を学んでいる。この意味で、子供にとって、自発的活動としての遊びは学習であると言える。

ウ 子供は自然に触れて遊ぶ中で、その大きさ、不思議さや美しさを感じ、心を揺れ動かす。自然との関わりの中で生まれる体験こそが、子供が本来もっている環境に対する感性を磨いていくことにつながる。特に自然は多様であり、子供の発達や興味・関心等に応じて、多様な関わりをもつことができる。幼児期においては、自然の中で諸感覚を働かせることを通して、自然に身を置くことの心地よさを体感させ、自然を感じる心を育てることが大切である。

- 1 イ
- 2 ウ
- 3 ア イ
- 4 イ ウ
- 5 ア イ ウ

令和5年度大阪市公立学校教員採用選考テスト

第2次選考筆答テスト(択一式)問題の正答について

幼稚園、幼稚園・小学校共通

解答番号	正答番号	解答番号	正答番号	解答番号	正答番号	解答番号	正答番号	解答番号	正答番号
1	2	11	4	21	3	31	-	41	-
2	4	12	3	22	4	32	-	42	-
3	3	13	4	23	2	33	-	43	-
4	4	14	5	24	4	34	-	44	-
5	1	15	1	25	-	35	-	45	-
6	3	16	5	26	-	36	-	46	-
7	3	17	5	27	-	37	-	47	-
8	2	18	3	28	-	38	-	48	-
9	5	19	3	29	-	39	-	49	-
10	2	20	5	30	-	40	-	50	-